

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	REBEL TANK	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.550	△RG	0.037	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：REBEL TANK**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  5 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：PURE SWING2 NANODESU**

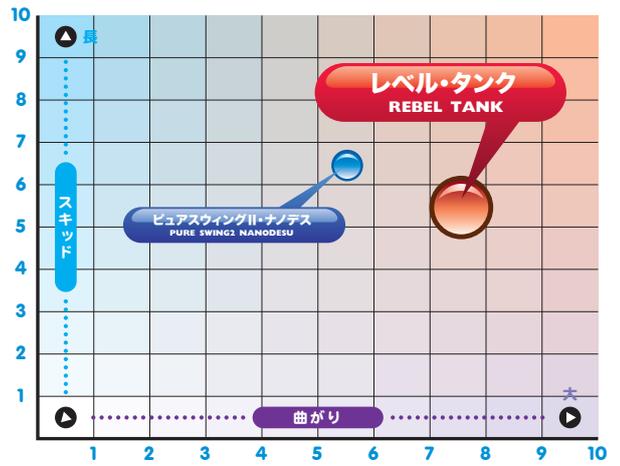
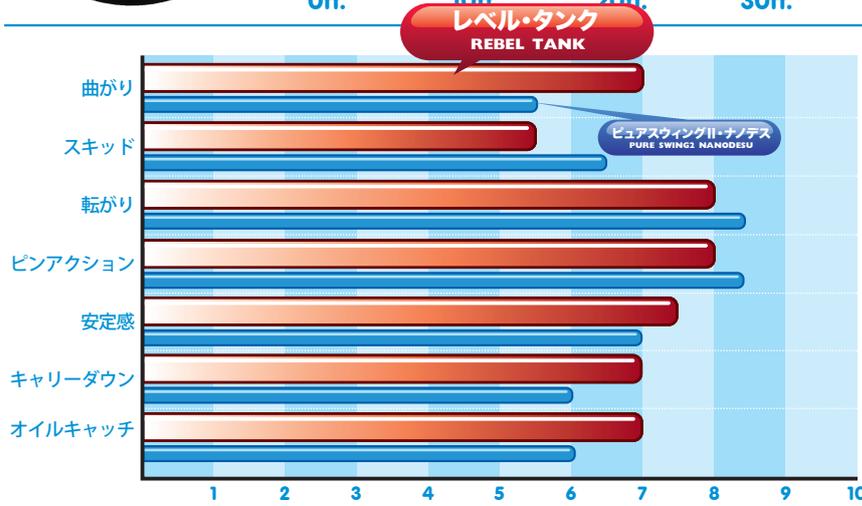
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  5 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

先月みなさんに紹介したGraffiti TAG。今までMOTIV社で発売するボールはmediumからmedium heavy対応のボールが殆どで、Graffiti TAGを発売することでその領域以外をカバーしようとしてきました。今度はGraffiti TAGと同じHalogen Coreを使い、高性能ウレタン素材を用いることでMOTIV社一色で統一できるもくろみをさらに一歩進め、同日に発売するASCENT APEXと加えるとすべてのコンディションをMOTIV社一色でまかなえる日が来たと言っても良いでしょう。

REBEL TANKはHalogen, DMX Pearl Urethane, 4000 Grit LSSで構成されていますが、Cover StockはArctic SniperのDMX UrethaneのPearl VersionとGraffiti TAGやTribal FireでおなじみのHalogen Coreです。

もちろん4000 Grit LSSと5500 Grit Laser Scan Polishedの表面加工の差でパフォーマンスを変えていることは言うまでもありません。

投球したイメージは、データのArctic Sniperと同じカバーストックと同じレベルであると思えなかったのが第一印象でした。確かにPearlであったりPolishなのかSandなのかの差はありますが、ここまで圧倒的にパフォーマンスが違うのには驚かされました。先入観なしに投球すればUrethane素材ではないと思わせるほどです。

高めのRGのHalogen Coreと4000 Grit Laser Scan Sandedの組み合わせは、慣性が高いコアの特徴でもある先での動きを強調させる特性と、4000 Gritの手前から中盤に摩擦を出そうとする特性とをうまく組み合わせ、手前から動き出しますが、ピンヒットまで動き続けるUrethane素材だからこそ高いパフォーマンスを持った仕上がりになっています。

### 特記事項

**Graffiti TAGにつづき、このREBEL TANK、ASCENT APEXとmediumクラス以下の性能を一気にリリースし、MOTIV一色に攻勢をかけてきました。動きが柔らかいウレタンですので、MOTIVファンは持っておくべきボールです。**